

- 52) Tamai M, Kawakami A, Uetani M, Takao S, Rashid H, Tanaka F, Fujikawa K, Aramaki T, Nakamura H, Iwanaga N, Izumi Y, Arima K, Aratake K, Kamachi M, Huang M, Origuchi T, Ida H, Aoyagi K, Eguchi K. Early prediction of rheumatoid arthritis by serological variables and magnetic resonance imaging of the wrists and finger joints: results from prospective clinical examination. *Ann Rheum Dis* 65 (1): 134-135, 2006.
- 53) 江口勝美. リウマチ・膠原病の早期診断. からだの科学 256: 24-29, 2008.
- 54) 江口勝美. TNF 阻害薬と結核症 呼吸器 13 (1): 84-91, 2008.
- 55) 江口勝美. 関節リウマチの早期診断・治療—その重要性和実際— *Medical Practice* 25 (8): 1341-1347, 2008.
- 56) 江口勝美, 上谷雅孝. MRI を用いた関節リウマチの早期診断予測 *関節外科* 27 (10 増刊): 82-95, 2008.
- 57) 江口勝美, 宇佐俊郎, 上谷雅孝. 画像診断 *総合臨床* 57 (12): 2846-2854, 2008.
- 58) 江口勝美. 関節リウマチの早期診断予測と適切な治療 *日本臨床内科医会誌* 23 (4): 389-397, 2008.
- 59) 松原 司, 江口勝美, 三森経世. 関節リウマチの診断方法の進歩 *診断と治療* 96 (2): 369-376, 2008.
- 60) 江口勝美, 右田清志, 川上 純, 折口智樹, 井田弘明, 中村英樹, 玉井慎美, 蒲池 誠. 【臨床医学の展望】リウマチ (膠原病)・アレルギー学. *日本医事新報* 4372: 64-73, 2008.
- 61) 井田弘明, 江口勝美. TRAPS の分子病態. 炎症と免疫 16(2): 139-148, 2008.
- 62) 一瀬邦弘, 川上 純, 江口勝美. 早期症例への積極的導入の意義. *Progress in Medicine* 28(1): 41-47, 2008.
- 63) 折口智樹, 江口勝美. 新しい生物学的製剤開発の現状と将来展望. *Progress in Medicine* 28(1): 91-97, 2008.
- 64) 川上 純, 玉井慎美, 岩本直樹, 江口勝美. ≪早期診断・早期治療のこつと治療のアルゴリズム≫ *関節リウマチ. 内科* 101(4): 629-634, 2008.
- 65) 川上 純, 玉井慎美, 江口勝美. EULAR 早期関節ガイドライン. *リウマチ科* 39(5): 449-453 2008.
- 66) 川上 純, 玉井慎美, 江口勝美. 早期関節炎と関節リウマチ. *長崎市医師会報* 42(6): 36-39 2008.
- 67) 川尻真也, 川上 純, 岩本直樹, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 蒲池 誠, 玉井慎美, 中村英樹, 井田弘明, 折口智樹, 江口勝美. 高尿酸血症の持続により持続性の多発関節炎を呈した慢性結節性痛風の一例. *Jpn J Clin Immunol* 31(3): 190-194, 2008.
- 68) 井田弘明, 一瀬邦弘, 荒牧俊幸, 右田清志, 江口勝美. TNF receptor-associated periodic syndrome (TRAPS) の全国疫学調査. *小児科* 49(10): 1349-1356, 2008.
- 69) 川上 純, 玉井慎美, 川尻真也, 岩本直樹, 藤川啓太, 江口勝美. 診断未確定関節炎の治療. *リウマチ科* 40(3): 303-308, 2008.
- 70) 上谷雅孝, 川上 純, 玉井慎美, 江口勝美. PART2. 骨関節疾患の MR imaging. 関節炎の MRI. 関節リウマチを中心に. *臨床画像* 24(11): 1336-1345, 2008.
- 71) 塩月香那子, 後藤貴史, 宮明寿光, 市川辰樹, 中尾一彦, 江口勝美. 抗 GAD 抗体陽性 C 型慢性肝炎に対するインターフェロン療法の検討. *肝臓* 49 (3): 122-124, 2008.

- 72) 阿比留教生, 江口勝美. 自己抗原の経粘膜投与による自己免疫疾患の発症抑制 - 1 型糖尿病とインスリン B 鎖ペプチドを中心に -. **臨床免疫・アレルギー科** 50(1): 90-97, 2008.
- 73) 川崎英二, 江口勝美. 糖尿病基礎研究の進歩. 糖尿病と耐糖能低下の成因分類と発症機序 1 型糖尿病 膵島炎発症の分子メカニズム. **日本臨床** 66(増 3) :348-353, 2008.
- 74) 江口勝美. 関節リウマチの早期診断による発症及び重症化予防. **厚生労働科学研究費補助金(免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業)平成 19 年度総括・分担研究報告書**, pp. 3-28, 2008.
- 75) 江口勝美. 病態形成における TH17 細胞と制御性 T 細胞の役割とその統御方法の開発. 早期診断予測基準と早期関節破壊進行基準の妥当性の研究. **厚生労働科学研究費補助金(免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業)平成 19 年度総括・分担研究報告書**, pp. 63-74, 2008.
- 76) 荒牧俊幸, 井田弘明, 岩本直樹, 藤川敬太, 一瀬邦弘, 岩永 希, 玉井慎美, 有馬和彦, 蒲池 誠, 中村英樹, 川上 純, 江口勝美, 折口智樹, 中島宗敏, 塚田敏昭, 松岡直樹, 植木幸孝, 福田孝昭. 多施設における関節リウマチ患者に対するタクロリムスの短期成績. **九州リウマチ** 26(2): 102-108, 2007.
- 77) 岩本直樹, 川上 純, 江口勝美, 後藤明子, 福田孝昭, 中島宗敏, 河部庸次郎, 松岡直樹, 溝上明成, 古山雅子, 塚田敏昭, 右田清志, 峰 雅宣, 植木幸孝. 関節リウマチに対するエタネルセプトの治療成績の検討: 併用抗リウマチ薬による層別化. **九州リウマチ** 27: 8-14, 2007.
- 78) 岩本直樹, 荒武弘一朗, 川尻真也, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 蒲池 誠, 玉井慎美, 中村英樹, 井田弘明, 川上 純, 江口勝美, 折口智樹. ミゾリビン投与により寛解を得られている増殖性ループス腎炎の 1 例. **九州リウマチ** 27: 41-45, 2007.
- 79) 中島宗敏, 川上 純, 江口勝美, Mollaret 髄膜炎を合併したリウマチ性多発筋痛症の一例. **九州リウマチ** 27: 52-55, 2007.
- 80) 一瀬邦弘, 川上 純, 江口勝美. 【関節リウマチにおける生物学的製剤の実際と問題点】アダリムマブ -PREMIER 試験の示すもの-. **リウマチ科** 37(1): 17-21, 2007.
- 81) 江口勝美, 折口智樹, 一瀬邦弘, 川上純. 【新薬展望 2007】治療における最近の新薬の位置付け<薬効別>. **新薬の広場. 抗リウマチ薬. 医薬ジャーナル** 43(増刊): 386-393, 2007.
- 82) 川上 純, 玉井慎美, 江口勝美. 早期関節炎の捉え方と病態解析の方向性. **日本臨床免疫学会会誌** 30(1): 37-40, 2007.
- 83) 江口勝美. 【プライマリ・ケア医のための関節リウマチの診かた 知っておきたいその基本と最新知見】関節リウマチの早期診断. **治療** 89(2): 345-350, 2007.
- 84) 江口勝美. 【関節リウマチの最新治療】関節リウマチの早期診断とその意義. **Medical Science Digest** 33(2): 697-701, 2007.
- 85) 上谷雅孝, 川上 純, 玉井慎美, 江口勝美. 【骨軟部画像診断の新たなる展開】早期関節リウマチの MRI 診断. **日独医報** 51(4): 659-668, 2007.
- 86) 江口勝美. ここまで知っておきたい痛みへのアプローチ 関節リウマチへの新たなアプローチ 1. 早期診断と早期治

- 療. 痛みと臨床 7 (2): 172-179, 2007.
- 87) 江口勝美. 【関節リウマチの骨・軟骨破壊】関節破壊進行の予測因子. **Clinical Calcium** 17 (4): 517-525, 2007.
- 88) 井田弘明, 江口勝美. 【Autoinflammatory syndrome の新たな展開と治療法の確立】TRAPS の診断と新しい治療法の展開. **日本臨床免疫学会会誌** 30 (2): 90-100, 2007.
- 89) 江口勝美, 折口智樹. 実践講座 疾患特有の評価法 関節リウマチ. **総合リハビリテーション** 35 (4): 365-371, 2007.
- 90) 江口勝美. 【リウマチ治療の新時代 治療薬を使いこなす】関節リウマチの早期診断—いかに早期から診断するか?. **内科** 99 (4): 587-594, 2007.
- 91) 岩永 希, 川上 純, 江口勝美. 【関節リウマチのパラダイムシフト 生物学的製剤時代の最新治療動向】生物学的製剤の最新エビデンス アダリムマブの欧米におけるエビデンス. **医学のあゆみ** 221 (5): 437-440, 2007.
- 92) 江口勝美. 卒後研修講座 関節リウマチの早期診断と臨床経過の予知. **整形外科** 58 (5): 571-575, 2007.
- 93) 江口勝美. 関節リウマチの早期診断と関節破壊進行の予知. **炎症と免疫** 15 (4): 519-525, 2007.
- 94) 藤川敬太, 川上 純, 江口勝美. 【生物学的製剤の免疫薬理と臨床 変貌する関節リウマチ治療ストラテジー】主要な生物学的製剤の構造、免疫薬理学的特徴と有用性のエビデンス サイトカインを標的とする生物学的製剤. TNF 阻害薬可溶性 TNF 受容体 IgG キメラ(エタネルセプト). **日本臨床** 65 (7): 1211-1217, 2007.
- 95) 江口勝美. 【生物学的製剤の免疫薬理と臨床 変貌する関節リウマチ治療ストラテジー】TNF 阻害薬の臨床 我が国における臨床成績を中心に 市販後全例使用成績が示す臨床的有用性と使用上の留意点 エタネルセプト. **日本臨床** 65 (7): 1259-1266, 2007.
- 96) 蒲池 誠, 江口勝美. 【SLE の発症機序と新たな治療法の探索】SR 蛋白質のリン酸化、脱リン酸化と alternative splicing 制御. SLE (全身性エリテマトーデス) における病態的意義と新規治療法への展望. **リウマチ科** 38 (2): 109-112, 2007.
- 97) 折口智樹, 江口勝美. 【新しい生物学的製剤】完全ヒト抗 TNF $\alpha$ 抗体 adalimumab. **炎症と免疫** 15 (5): 558-564, 2007.
- 98) 井田弘明, 江口勝美. Autoinflammatory syndrome. **リウマチ科** 38 (3): 283-289, 2007.
- 99) 江口勝美. 【関節リウマチ 患者さんに信頼されるための最新知識とその活用】関節リウマチ・トピックス 関節リウマチと抗 CCP 抗体 早期診断と早期治療への有用性. **Medical Practice** 24 (10): 1783-1784, 2007.
- 100) 井田弘明, 江口勝美. 【発熱と多関節痛を主訴とする疾患 その病因と膠原病との鑑別について】TRAPS (TNF receptor-associated periodic syndrome). **リウマチ科** 38 (4): 361-369, 2007.
- 101) 江口勝美. 【整形外科医のための care と cure I RA の window of opportunity を逃さないために】整形外科医のための RA 診断. 診断未確定関節炎症例の RA 発症と関節破壊の出現・進行の予測. **骨・関節・靭帯** 20 (10): 941-949, 2007.
- 102) 上谷雅孝, 川上 純, 玉井慎美, 江口勝美. 【整形外科医のための care と

- cure I, RA の window of opportunity を逃さないために】整形外科医のための RA 診断。早期関節リウマチの MRI。骨・関節・靭帯 20 (10): 983-991, 2007.
- 103) 江口勝美. 関節リウマチと抗 CCP 抗体. **Medical Practice** 24 (10): 1783-1784, 2007.
- 104) 江口勝美. 関節リウマチの診断. **Animus** 49 (春): 17-21, 2007.
- 105) 川上 純, 中村英樹, 江口勝美. 【TNF ファミリーの分子リウマチ学基礎から臨床へ】 FasL/Fas (CD95). 分子リウマチ 4 (4): 320-323, 2007.
- 106) 蒲池 誠, 江口勝美. シグナル伝達経路を介した alternative splicing の誘導 —その生物学的意義と制御メカニズム—. **Inflammation and Regeneration** 27 (6): 575-578, 2007.
- 107) 江口勝美. 【関節リウマチ治療 インフリキシマブとエタネルセプト】 エタネルセプトの使い方 ガイドライン. **Mebio** 24 (12): 50-56, 2007.
- 108) 折口智樹, 一瀬邦弘, 玉井慎美, 中村英樹, 川上 純, 江口勝美. ANCA 関連血管炎の病態と治療における最近の知見. **日本臨床免疫学会会誌** 30 (6): 432-443, 2007.
- 109) 折口智樹, 江口勝美. 開発メーカーが知っておきたい抗体医薬品 (抗リウマチ薬) の有害事象. **Pharm Stage** 7 (5): 9-12, 2007.
- 110) 江口勝美. 臨床免疫学概論. (木本雅夫, 阪口薫雄, 山下優毅 (編): 免疫学コア講義 改訂 2 版, 南江堂, 東京, pp.169-175 所収), 2007.
- 111) 江口勝美. 関節リウマチ. (木本雅夫, 阪口薫雄, 山下優毅 (編): 免疫学コア講義 改訂 2 版, 南江堂, 東京, pp.203-208 所収), 2007.
- 112) 江口勝美, 折口智樹. 感染性関節炎. (杉本恒明, 矢崎義雄 (編): 内科学, 朝倉書店, 東京, pp.1104-1105 所収), 2007.
- 113) 江口勝美. 関節リウマチの早期診断法の確立及び臨床経過の予測に関する研究. 関節リウマチの早期診断法の確立及び臨床経過の予測に関する研究 平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金 (免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業) 総括・分担研究報告書, pp.1-12, 2007
- 114) 江口勝美. 関節リウマチに進展する早期関節炎の鑑別と早期からの関節破壊の予知に関する研究. 関節リウマチの早期診断法の確立及び臨床経過の予測に関する研究 平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金 (免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業) 総括・分担研究報告書, pp.31-42, 2007.
- 115) 江口勝美, 蒲池 誠. RNA スプライシング異常による SLE 発症機序の解明と新規治療法の開発. 自己免疫疾患に関する調査研究 平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患克服研究事業) 総括・分担研究報告書, pp.81-83, 2007.
- 116) 中村龍文, 福島直美, 西浦義博, 荒牧俊幸, 井田弘明, 江口勝美: HAM 患者 HTLV-I 感染細胞における HTLV-I 産生に及ぼすインテグリン/リガンドシグナリングの検討. 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患克服研究事業) 免疫性神経疾患に関する調査研究 平成 18 年度 総括・分担研究報告書, pp.108-110, 2007.
- 117) 本村政勝, 白石裕一, 福田 卓, 江口勝美, 吉村俊郎, 福留隆泰, 松尾秀徳, 辻畑光宏: 抗 MuSK 抗体陽性重症筋無力症の合併症の検討. 厚生労働科学研究

- 費補助金(難治性疾患克服研究事業)免疫性神経疾患に関する調査研究 平成18年度総括・分担研究報告書, pp.127-128,2007.
- 118) 辻野 彰, 本村政勝, 江口勝美, 調 漸: 治験実施に関する研究[酢酸リュープロレリン]. 厚生労働科学研究費補助金(治験推進研究事業) 平成18年度総括・分担研究報告書, pp.292-293,2007.
- 119) Kobayashi S, Ikari K, Kaneko H, Kochi Y, Yamamoto K, Shimane K, Nakamura Y, Toyama Y, Mochizuki T, Tsukahara S, Kawaguchi Y, **Terai C**, Hara M, Tomatsu T, Yamanaka H, Horiuchi T, Tao K, Yasumoto K, Hamada D, Yasui N, Inoue H, Itakura M, Okamoto H, Kamatani N, Momohara S. Association of STAT4 with susceptibility to rheumatoid arthritis and systemic lupus erythematosus in Japanese. **Arthritis Rheum** 58 (7): 1940-1946, 2008.
- 120) Hoshi D, Okamoto H, Kaneko H, Ichikawa N, **Terai C**, Yamanaka H, Kamatani N. Association of polymorphism in the monocyte chemoattractant protein-1/CCL2 gene and lupus nephritis in systemic lupus erythematosus patients. **Clin Exp Rheum** 26 (5): 972-973, 2008.
- 121) Yamanaka H, Inoue E, Tanaka E, Nakajima A, Taniguchi A, **Terai C**, Hara M, Tomatsu T, Kamatani N. Influence of methotrexate dose on its efficacy and safety in rheumatoid arthritis patients: evidence based on the variety of prescribing approaches among practicing Japanese rheumatologists in a single institute-based large observational cohort (IORRA). **Mod Rheumatol** 17: 98-105, 2007.
- 122) Kitahama M, Koseki Y, Sakurai T, Kamatani N, **Terai C**. Female is a risk factor for developing AA-amyloidosis in patients with Rheumatoid Arthritis. **Arthritis Rheum** 56: S410-411, 2007.
- 123) 佐藤美樹, 森口正人, 高鳥志乃, 樋口敬和, 寺井千尋. 大量免疫グロブリン療法が奏効した抗リン脂質抗体関連血球貪食症候群の1例. 日本内科学会誌 97: 125-127, 2008.
- 124) **Mimori T**, Imura Y, Nakashima R, Yoshifuji H. Autoantibodies in idiopathic inflammatory myopathy: an update on clinical and pathophysiological significance. **Curr Opin Rheumatol** 19 (6): 523-529, 2007.
- 125) Handa T, Nagai S, Miki S, Ueda S, Yukawa N, Fushimi Y, Ito Y, Ohta K, **Mimori T**, Mishima M, Izumi T. Incidence of pulmonary hypertension and its clinical relevance in patients with interstitial pneumonias: comparison between idiopathic and collagen vascular disease associated interstitial pneumonias. **Intern Med** 46 (12): 831-837, 2007.
- 126) Tokunaga M, Saito K, Kawabata D, Imura Y, Fujii T, Nakayamada S, Tsujimura S, Nawata M, Iwata S, Azuma T, **Mimori T**, Tanaka Y. Efficacy of rituximab (anti-CD20) for refractory systemic lupus erythematosus involving the central nervous system. **Ann Rheum Dis** 66 (4): 470-475, 2007.
- 127) Hirakata M, Suwa A, Takada T, Sato S, Nagai S, Genth E, Song YW, **Mimori T**, Targoff IN. Clinical and immunogenetic features of patients with autoantibodies to asparaginyl-transfer RNA synthetase. **Arthritis Rheum** 56 (4): 1295-1303, 2007.
- 128) Fujita Y, Fujii T, Takeda N, Tanaka M, **Mimori T**. Successful treatment of

- primary Sjögren's syndrome with chronic natural killer lymphocytosis by high-dose prednisolone and indomethacin farnesil. **Intern Med** 46 (5): 251-254, 2007.
- 129) Ito Y, Kawabata D, Yukawa N, Yoshifuji H, Usui T, Tanaka M, Fujii T, **Mimori T**. Severe subcutaneous generalized edema in a patient with dermatomyositis. **Mod Rheumatol** 17 (2): 171-173, 2007.
- 130) Murakami K, Fujii T, Yukawa N, Yoshifuji H, Kawabata D, Tanaka M, Usui T, **Mimori T**. Successful treatment of a patient with refractory adult Still's disease by tacrolimus. **Mod Rheumatol** 17 (2): 167-170, 2007.
- 131) Kawasaki A, Kyogoku C, Ohashi J, Miyashita R, Hikami K, Kusaoi M, Tokunaga K, Takasaki Y, Hashimoto H, Behrens TW, **Tsuchiya N**. Association of interferon regulatory factor 5 (IRF5) polymorphisms with systemic lupus erythematosus in Japanese: Support for a crucial role of intron 1 polymorphisms. **Arthritis Rheum** 58 (3): 826-834, 2008.
- 132) Kawasaki A, Ito I, Hikami K, Ohashi J, Hayashi T, Goto D, Matsumoto I, Ito S, Tsutsumi A, Koga M, Arinami T, Graham RR, Hom G, Takasaki Y, Hashimoto H, Behrens TW, Sumida T, **Tsuchiya N**. Role of STAT4 polymorphisms in systemic lupus erythematosus in a Japanese population: a case-control association study of the STAT1-STAT4 region. **Arthritis Res Ther** 10: R113, 2008.
- 133) Furuya T, Matsumoto I, **Tsuchiya N**, Hakoda M, Ichikawa N, Higami K, Nanke Y, Sumida T, Kamatani N, Kotake S. Anti-glucose-6-phosphate isomerase, anti-cyclic citrullinated peptide antibodies and HLA-DRB1 genotypes in Japanese patients with early rheumatoid arthritis. **Clin Exp Rheumatol** 26: 918-921, 2008.
- 134) Ichikawa N, Kotake S, Hakoda M, Higami K, Kawasaki A, Furuya T, Nanke Y, **Tsuchiya N**, Tokunaga K, Kamatani N. Combining effects of polymorphism of tumor necrosis factor alpha 5'-flanking region and HLA-DRB1 on radiological progression in patients with rheumatoid arthritis. **Mod Rheumatol**. Published Online First: 12 November 2008. doi: 10.1007/s10165-008-0134-0
- 135) Ito I, Kawasaki A, Ito S, Hayashi T, Goto D, Matsumoto I, Tsutsumi A, Hom G, Graham RR, Takasaki Y, Hashimoto H, Ohashi J, Behrens TW, Sumida T, **Tsuchiya N**. Replication of the association between C8orf13-BLK region and systemic lupus erythematosus in a Japanese population. **Arthritis Rheum**. ,in press.
- 136) Furuya T, Hakoda M, Ichikawa N, Higami K, Nanke Y, Yago T, Kobashigawa T, Tokunaga K, **Tsuchiya N**, Kamatani N, Kotake S. Differential association of HLA-DRB1 alleles in Japanese patients with early rheumatoid arthritis in relationship to autoantibodies to cyclic citrullinated peptide. **Clin Exp Rheumatol** 25: 219-224, 2007.
- 137) **Tsuchiya N**, Kyogoku C, Miyashita R, Kuroki K. Diversity of human immune system multigene families and its implication in the genetic background of

- rheumatic diseases. *Curr Med Chem* 14: 421-439, 2007.
- 138) Kyogoku C, Tsuchiya N. A compass that points to lupus: Genetic studies on type I interferon pathway. *Genes Immun* 8: 445-455, 2007.
- 139) 土屋尚之: 関節リウマチとHLA。 *MHC* 15: 235-248, 2008.
- 140) 土屋尚之: 関節リウマチ、全身性エリテマトーデスとSTAT4遺伝子。 *Frontiers in Rheumatology & Clinical Immunology* 2: 146-149, 2008.
- 141) 土屋尚之. 関節リウマチ関連遺伝子解析に基づく新規治療法開発の可能性. *BIO Clinica* 22: 894-897, 2007.
- 142) Tsuzaka K, Itami Y, Kumazawa C, Suzuki M, Setoyama Y, Yoshimoto K, Suzuki K, Abe T, Takeuchi T. Conservative sequences in 3'UTR of TCR $\zeta$  mRNA regulate TCR $\zeta$  in SLE T cells. *Biochem Biophys Res Commun* 367: 311-317, 2008.
- 143) Ohashi Y, Tsuzaka K, Takeuchi T, Sasaki Y, Tsubota k. Reduced expression of aquaporin 5 and its C-terminal binding protein in the lacrimal glands of a mouse model for Sjögren's syndrome. *Current Eye Res* 33: 621-629, 2008.
- 144) Suzuki K, Setoyama Y, Yoshimoto K, Tsuzaka K, Abe T, Takeuchi T. Effect of interleukin 2 on synthesis of B cell activating factor belonging to the tumor necrosis factor family (BAFF) in human peripheral blood mononuclear cells. *Cytokine* 44: 44-48, 2008.
- 145) Ogawa H, Kameda H, Nagasawa H, Sekiguchi N, Takei H, Tsuzaka K, Amano K, Takeuchi T. Prospective study of low-dose cyclosporine A in patients with refractory lupus nephritis. *Mod Rheumatol* 17: 92-97, 2007.
- 146) Tsuzaka K, Matsumoto Y, Sasaki Y, Abe T, Tsubota K, Takeuchi T. Down-regulation of Fas-ligand mRNA in Sjögren's syndrome patients with enlarged exocrine glands. *Autoimmunity* 40: 497-502, 2007.
- 147) Suzuki K, Kobayashi S, Yamazaki K, Gondo M, Tomizawa K, Arimura Y, Nakabayashi K, Ozaki S, Yoshida M, Yoshida T, Tsuzaka K, Muso E, Okazaki T, Hashimoto H. Analysis of risk epitopes of anti-neutrophil antibody MPO-ANCA in vasculitis in Japanese population. *Microbiol Immunol* 51: 1215-1220, 2007.
- 148) 津坂憲政. SLE T細胞におけるTCR $\zeta$ 鎖発現低下. *最新医学* 63: 904-911, 2008.
- 149) 津坂憲政. SLEモデルマウスはT細胞非依存性に発症する. *リウマチ科* 40: 181-184, 2008.
- 150) 江口勝美, 上谷雅孝. 【整形外科疾患に対する最新画像診断】 MRI MRIを用いた関節リウマチの早期診断予測. *関節外科* 27 (10増刊): 82-95, 2008.
- 151) 山下康行, 富樫かおり, 中本裕士, 川光秀昭, 加藤勤, 門澤秀一, 松井美詠子, 北垣一, 内田幸司, 興侶征典, 福田国彦, 中島康雄, 佐久間肇, 鳴海善文, 堀之内隆, 上谷雅孝, 土橋俊男, 土井司, 林田佳子, 小味昌憲, 肥合康弘. 日本磁気共鳴医学会研究プロジェクト「ルーチンMRI撮像法の標準化検討」成果報告(第1報)脊椎・脊髄・乳腺. *日本磁気共鳴医学会雑誌* 28: 196-209, 2008.
- 152) 上谷雅孝, 川上純, 玉井慎美, 江口勝美. 【骨関節画像診断の最前線 MSKを識る】 骨関節組織のMR imaging 関

- 節炎の MRI 関節リウマチを中心に. **臨床画像** 24: 1336-1345, 2008.
- 153) Tamai M, Kawakami A, Uetani M, et al. Bone edema determined by magnetic resonance imaging reflects severe disease status in patients with early-stage rheumatoid arthritis. **J Rheumatol** 34 (11): 2154-2157, 2007.
- 154) 上谷雅孝. 【関節リウマチの骨・軟骨破壊】 画像診断による関節破壊評価 単純 X 線写真と MRI. **Clinical Calcium** 17 (4): 453-462, 2007.
- 155) 上谷雅孝, 川上純, 玉井慎美, 江口勝美. 【整形外科医のための care と cure I RA の window of opportunity を逃さないために】 整形外科医のための RA 診断 早期関節リウマチの MRI. **骨・関節・靭帯** 20 (10): 983-991, 2007.
- 156) Fujikawa K, Kawakami A, Tamai M, Uetani M, Takao S, Arima K, Iwamoto N, Aramaki T, Kawashiri S, Ichinose K, Kamachi M, Nakamura H, Origuchi T, Ida H, Aoyagi K, Eguchi K. High serum cartilage oligomeric matrix protein determines the subset of early-stage rheumatoid arthritis patients with high serum C-reactive protein, matrix metalloproteinase 3 and MRI-proven bone erosion. **J Rheumatol**, accept 2008.
- 157) Akilzhanova A, Takamura N, Kusano Y, Karazhanova A, Yamashita S, Saito H, Aoyagi K. Association between C677T/MTHFR genotype and homocysteine concentration in a Kazakh population. **Asia Pac J Clin Nutr** 17(2): 325-329, 2008.
- 158) Tahara Y, Moji K, Honda S, Nakao R, Tsunawake N, Fukuda R, Aoyagi K, Nicholas M-Taylor. Fat-free mass and excess post-exercise oxygen consumption in the 40 minutes after short-duration exhaustive exercise in young male Japanese athletes. **J Physiol Anthropol** 27 (3): 139-143, 2008.
- 159) Hama K, Takamura N, Honda S, Abe Y, Yagura C, Miyamura T, Obama M, Morisaki M, Imamura S, Aoyagi K. Evaluation of quality of life in Japanese normal pregnant women. **Acta Med Nagasaki** 52: 95-99, 2008.
- 160) Kadota K, Takamura N, Aoyagi K, Yamasaki H, Usa T, Nakazato M, Maeda T, Wada M, Nakashima K, Abe K, Takeshima F, Ozono Y. Availability of cardio-ankle vascular index(CAVI) as a screening tool for atherosclerosis. **Circulation Journal** 72 (2): 304-308, 2008.
- 161) Wing K, Onishi Y, Prieto-Martin P, Yamaguchi T, Miyara M, Fehervari Z, Nomura T, Sakaguchi S. CTLA-4 control over Foxp3+ regulatory T cell function. **Science**. 322 (5899): 271-5, 2008.
- 162) Wakasa-Morimoto C, Toyosaki-Maeda T, Matsutani T, Yoshida R, Nakamura-Kikuoka S, Maeda-Tanimura M, Yoshitomi H, Hirota K, Hashimoto M, Masaki H, Fujii Y, Sakata T, Tsuruta Y, Suzuki R, Sakaguchi N, Sakaguchi S. Arthritis and pneumonitis produced by the same T cell clones from mice with spontaneous autoimmune arthritis. **Int Immunol**. 20 (10): 1331-42, 2008.
- 163) Onishi Y, Fehervari Z, Yamaguchi T, Sakaguchi S. Foxp3+ natural regulatory T cells preferentially form aggregates on dendritic cells in vitro and actively inhibit their maturation. **Proc Natl Acad Sci USA**. 105 (29): 10113-8, 2008.
- 164) Sakaguchi S, Yamaguchi T, Nomura T, Ono M. Regulatory T cells and immune



- tolerance. *Cell* 133 (5): 775-87, 2008.
- 165) **Sakaguchi S.** Regulatory T cells in the past and for the future. *Eur J Immunol*. 2008 38(4):901-37.
- 166) Fehervari Z, et al. T lymphocytes: Regulatory. *Nature Encyclopedia of Life Sciences*. Wiley Interscience, . Available at [www.els.net](http://www.els.net). 2008.
- 167) Nagahama K, et al. Differential control of alloantigen-specific regulatory T cells and effector T cells by anti-CD4 and other agents in establishing transplantation tolerance. *Int. Immunol*. In press.
- 168) Yamaguchi Y, **Fujio K**, Shoda H, Okamoto A, Tsuno NH, Takahashi K, Yamamoto K. Interleukin-17B and interleukin-17C are associated with TNF-alpha production and contribute to the exacerbation of inflammatory arthritis. *J Immunol* 179: 7128-7136, 2007.
- 169) **Fujio K**, Okamura T, Okamoto A, Yamamoto K. T cell receptor gene therapy for autoimmune diseases. *Ann N Y Acad Sci* 1110: 222-232, 2007.
- 170) Ito I, Kawasaki A, Ito S, Hayashi T, Goto D, Matsumoto I, Tsutsumi A, Hom G, Graham RR, Takasaki Y, Hashimoto H, Ohashi J, Behrens TW, **Sumida T**, Tsuchiya N. Replication of the association between C8orf13-BLK region and systemic lupus erythematosus in a Japanese population. *Arthritis Rheum* (in press).
- 171) Kawasaki A, Ito I, Hikami K, Ohashi J, Hayashi T, Goto D, Matsumoto I, Ito S, Tsutsumi A, Koga M, Arinami T, Graham RR, Hom G, Takasaki Y, Hashimoto H, Behrens TW, **Sumida T**, Tsuchiya N. Role of STAT4 polymorphisms in systemic lupus erythematosus in a Japanese population: a case-control association study of the STAT1-STAT4 region. *Arthritis Res Ther* (in press).
- 172) Matsumoto I, Zhang H, Yasukochi T, Iwanami K, Tanaka Y, Inoue A, Goto D, Ito S, Tsutsumi A, **Sumida T**. Therapeutic effects of antibodies to TNF $\alpha$  and IL-6 and CTLA-4 Ig in mice with glucose-6-phosphate isomerase-induced arthritis. *Arthritis Res Ther* 10: (in press).
- 173) Kawaguchi Y, Wakamatsu E, Matsumoto I, Nishimagi E, Kamatani N, Satoh T, Kuwana M, **Sumida T**, Hara M. Muscarinic-3 acetylcholine receptor autoantibody in patients with systemic sclerosis: contribution to severe gastrointestinal tract dysmotility. *Ann Rheum Dis* (in press).
- 174) Iwanami K, Matsumoto I, Tanaka Y, Inoue A, Goto D, Ito S, Tsutsumi A, **Sumida T**. Arthritogenic T cell epitope in glucose-6-phosphate isomerase-induced arthritis. *Arthritis Res. Ther* 10: R130, 2008.
- 175) Tanaka Y, Matsumoto I, Iwanami K, Inoue A, Goto D, Ito S, Tsutsumi A, **Sumida T**. B cells play a crucial role as antigen-presenting cells and collaborate with inflammatory cytokines in glucose-6-phosphate isomerase-induced arthritis. *Clin Exp Immunol* 155: 285-294, 2008.
- 176) Iwanami K, Matsumoto I, Watanabe Y, Mihara M, Ohsugi Y, Mamura M, Goto D, Ito S, Tsutsumi A, Kishimoto T, **Sumida T**. Crucial role of IL-6/IL-17 cytokine axis in the induction of arthritis by glucose-6-phosphate-isomerase. *Arthritis Rheum* 58: 754-763, 2008.

- 177) Nakamura Y, Wakamatsu E, Tomiita M, Kohno Y, Yokoka J, Goto D, Ito S, Matsumoto I, Tsutsumi A, **Sumida T**. High prevalence of autoantibodies to muscarinic 3 acetylcholine receptor in patients with juvenile Sjögren's syndrome. **Ann Rheum Dis** 67: 136-137, 2008.
- 178) Matsui H, Tsutsumi A, Sugihara M, Suzuki T, Iwanami K, Kohno M, Goto D, Matsumoto I, Ito S, **Sumida T**. Visfatin (pre-B cell colony-enhancing factor) gene expression in patients with rheumatoid arthritis. **Ann Rheum Dis** 67: 571-572, 2008.
- 179) Yoshiga Y, Goto D, Segawa S, Ohnishi Y, Matsumoto I, Ito S, Tsutsumi A, Taniguchi M, **Sumida T**. Invariant NKT cells are novel accelerator of IL-17 in the pathogenesis of collagen-induced arthritis. **Int J Mol Med** 22: 369-374, 2008.
- 180) Wang Y, Ito S, Chino Y, Goto D, Matsumoto I, Tsutsumi A, **Sumida T**. Use of laser microdissection in the analysis of renal-infiltrating T cells in MRI-lpr mice. **Mod Rheumatol** 18: 385-393, 2008.
- 181) Harashi T, Matsumoto I, Yasukochi T, Chino Y, Mamura M, Goto D, Ito S, Tsutsumi A, **Sumida T**. Biased usage of synovial immunoglobulin heavy chain variable regions 4 by the anti-glucose-6-phosphate isomerase antibody in patients with rheumatoid arthritis. **Int J Mol Med** 20: 247-253, 2007.
- 182) Sugihara M, Tsutsumi A, Suzuki E, Suzuki T, Ogishima H, Hayashi T, Chino Y, Ishii W, Manura M, Goto D, Matsumoto I, Ito S, **Sumida T**. The gene expressions of TNF $\alpha$ , TTP, TIA-1 and HuR in the peripheral blood mononuclear cells of patients with rheumatoid arthritis before and after infliximab therapy. **Arthritis Rheum** 56: 2160-2169, 2007.
- 183) Wakamatsu E, Nakamura Y, Matsumoto I, Goto D, Ito S, Tsutsumi A, **Sumida T**. DNA microarray analysis of labial salivary glands from patients with Sjögren's syndrome. **Ann Rheum Dis** 66: 844-845, 2007.
- 184) Terahara T, Igarashi O, Yoshida M, Nochi T, Kurokawa S, Takayama N, Yuki Y, Low AW, **Kiyono H**. Comprehensive gene expression analysis among Peyer's patch M cells, villous M cells and intestinal epithelial cells by DNA microarray analysis. **J Immunol** 180: 7840-7846, 2008.
- 185) Kunisawa J, Gohda M, Kurashima Y, Ishikawa I, Higuchi M, **Kiyono H**. Sphingosine 1-phosphate-dependent trafficking of peritoneal B cells requires functional NF  $\kappa$  B-inducing kinase in stromal cells. **Blood** 111: 4646-4652, 2008.
- 186) Gohda M, Kunisawa J, Miura F, Kagiya Y, Kurashima Y, Higuchi M, Ishikawa I, Ogahara I, **Kiyono H**. Sphingosine 1-phosphate regulates the egress of IgA plasmablasts from Peyer's patches for intestinal IgA responses. **J Immunol** 180: 5335-5343, 2008.
- 187) Chang SY, Cha HR, Igarashi O, Rennert PD, Kissenpfennig A, Malissen B, Nanno M, **Kiyono H**, Kweon MN. Cutting edge: Langerin+ dendritic cells in the mesenteric lymph node set the stage for skin and gut immune system cross-talk. **J Immunol** 180: 4361-5, 2008.
- 188) Chang SY, Cha HR, Uematsu S, Akira S, Igarashi O, **Kiyono H**, Kweon MN.

- Colonic patches direct the cross-talk between systemic compartments and large intestine independently of innate immunity. **J Immunol** 180: 1609-18, 2008.
- 189) Uematsu, S, Fujimoto K, Jang MH, Yang BG, Jung YJ, Nishiyama M, Sato S, Tsujimura T, Yamamoto M, Yokota Y, **Kiyono H**, Miyasaka M, Ishii KJ, Akira S. Regulation of humoral and cellular gut immunity by lamina propria dendritic cells expressing Toll-like receptor 5. **Nat Immunol** 9: 769-776, 2008.
- 190) Kobayashi T, Takahashi K, Nagai Y, Shibata T, Otani M, Izui S, Akira S, Gotoh Y, **Kiyono H**, Miyake K. Tonic B cell activation by Radioprotective105/MD-1 promotes disease progression in MRL/lpr mice. **Int Immunol** 20: 881-91, 2008.
- 191) Hashizume T, Togawa A, Nochi T, Igarashi O, Kweon MN, **Kiyono H**, Yamamoto M. Peyer's patches are required for intestinal IgA responses to Salmonella. **Infect Immun** 76: 927-934, 2008.
- 192) Momoi F, Hashizume T, Kurita-Ochiai T, Yuki Y, **Kiyono H**, Yamamoto M. Nasal vaccination with the 40-kilodalton outer membrane protein of porphyromonas gingivalis and a nontoxic chimeric enterotoxin adjuvant induces long-term protective immunity with reduced levels of immunoglobulin E antibodies. **Infect Immun** 76: 2777-2784, 2008.
- 193) Kunisawa J, Nochi T, **Kiyono H**. Immunological commonalities and distinctions between airway and digestive immunity. **Trends Immunol** 29: 505-513, 2008.
- 194) Takayama N, Igarashi O, Kweon MN, **Kiyono H**. Regulatory role of Peyer's patches for the inhibition of OVA-induced allergic diarrhea. **Clin Immunol** 123: 199-208, 2007.
- 195) Kim N, Kunisawa J, Kweon MN, Eog JG, **Kiyono H**. Oral feeding of *Bifidobacterium bifidum*(BGN4) prevents CD4<sup>+</sup> CD45RB<sup>high</sup> T cell activation. **Clin Immunol** 123: 30-39, 2007.
- 196) Tamagawa H, Hiroi T, Mizushima T, Ito T, Matsuda H, **Kiyono H**. Therapeutic effects of roxithromycin in interleukin -10-deficient colitis. **Inflamm. Bowel Dis** 13: 547-556, 2007.
- 197) Makita S, Kanai T, Nemoto Y, Totsuka T, Okamoto R, Tsuchiya K, Yamamoto M, **Kiyono H**, Watanabe M. Intestinal lamina propria retaining CD4<sup>+</sup> CD25<sup>+</sup> regulatory T cells is a suppressive site of intestinal inflammation. **J Immunol** 178: 4937-4946, 2007.
- 198) Kunisawa J, Takahashi I, **Kiyono H**. Intraepithelial lymphocytes: their shared and divergent immunological behaviors in the small and large intestine. **Immunol Rev** 215: 136-153, 2007.
- 199) McGhee JR, Kunisawa J, **Kiyono H**. Gut lymphocyte migration: we are halfway 'home'. **Trends Immunol** 28: 150-153, 2007.
- 200) Fukuyama S, **Kiyono H**. Neuroregulator RET initiates Peyer's-patch tissue genesis. **Immunity** 26: 393-395, 2007.
- 201) Nagai S, Mimuro H, Sasakawa C, Nochi T, **Kiyono H**, Koyasu S. Role of Peyer's patches in *Helicobacter pylori*-induced gastritis. **Proc Natl Acad Sci USA** 104: 8971-8976, 2007.
- 202) Kunisawa J, Kurashima Y, Higuchi M,

Gohda I, Ishikawa I, Ogahara I, Kim N, Shimizu M, **Kiyono H**. Distinct dependence upon sphingosine 1-phosphate in the regulation of lymphocyte trafficking to the gut epithelium. **J Exp Med** 204: 2335-2348, 2007.

- 203) Nochi T, Yuki Y, Matsumura A, Mejima M, Terahara K, Kim DY, Fukuyama S, Iwatsuki-Horimoto K, Kawaoka Y, Igarashi O, **Kiyono H**. A novel M-cell-specific carbohydrate-targeted mucosal vaccine induces effectively antigen-specific immune responses. **J Exp Med** 204: 2789-2796, 2007.

## 2. 学会発表

- 1) Tamai M, Kawakami A, Kawashiri S, Iwamoto N, Fujikawa K, Aramaki T, Ichinose K, Kamachi M, Arima K, Nakamura H, Ida H, Origuchi T, **Eguchi K**. Anti-cyclic citrullinated peptide antibodies and genetic background as prognostic factors for the development of rheumatoid arthritis in patients with palindromic rheumatism. Annual European Congress of Rheumatology, 2008.6.11-14, Paris, France.
- 2) Tamai M, Uetani M, Kawakami A, Fukushima A, Arima K, Fujikawa K, Iwamoto N, Kawashiri S, Aramaki T, Ichinose K, Kamachi M, Nakamura H, Ida H, Origuchi T, **Eguchi K**. Bone changes detected by plain MRI of both wrists and finger joints in early-stage rheumatoid arthritis accurately reflect the bone changes in GD-enhanced MRI. Annual European Congress of Rheumatology, 2008.6.11-14, Paris, France.
- 3) 江口勝美. 関節リウマチの早期診断と関

節破壊進行の予測. 第 105 回日本内科学会講演会, 2008.4.11-4.13, 東京.

- 4) 玉井慎美, 川上 純, 上谷雅孝, 福島文, 川尻真也, 岩本直樹, 藤川敬太, 有馬和彦, 青柳 潔, 江口勝美. 単純 MRI の有用性: 診断未確定関節炎の早期治療開始に向けて. 第 105 回日本内科学会講演会, 2008.4.11-4.13, 東京.
- 5) 江口勝美. MRI 画像による関節リウマチの早期診断予測と関節破壊進行予測. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 6) 井田弘明, 一瀬邦弘, 荒牧俊幸, 川尻真也, 岩本直樹, 藤川敬太, 蒲池 誠, 玉井慎美, 中村英樹, 折口智樹, 川上 純, 右田清志, 江口勝美. TRAPS 全国疫学調査と TRAPS が疑われた不明熱症例の検討. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 7) 井田弘明, 一瀬邦弘, 荒牧俊幸, 江口勝美. 本邦における自己炎症症候群の定義の検討. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 8) 古賀智裕, 右田清志, 宮下賜一郎, 鳥越雄史, 本川 哲, 江口勝美. 血清アミロイドA蛋白のRA滑膜細胞に対する影響. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 9) 玉井慎美, 上谷雅孝, 川上 純, 川尻真也, 岩本直樹, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 蒲池 誠, 有馬和彦, 中村英樹, 井田弘明, 折口智樹, 青柳 潔, 江口勝美. 早期関節リウマチでの両手撮像 MRI. 第 52 回日本リウマチ学会総会・

- 学術集会, 第 17 回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 10) 江口勝美, 上谷雅孝, 川上 純, 玉井慎美. MRI 画像による関節リウマチの早期診断予測と関節破壊進行予測. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 11) 江口勝美. 関節リウマチの早期診断予測と適切な治療. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 12) 荒牧俊幸, 井田弘明, 川尻真也, 岩本直樹, 藤川敬太, 一瀬邦弘, 中村英樹, 川上 純, 折口智樹, 中島宗敏, 塚田敏昭, 松岡直樹, 植木幸孝, 福田孝昭, 江口勝美. 多施設における関節リウマチに対するタクロリムスの使用成績(第二報). 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 13) 藤川敬太, 川上 純, 藤本 学, 桑名正隆, 佐藤伸一, 江口勝美. 皮膚筋炎で検出される抗 140kD 抗体および 140/155kD 抗体の臨床的意義. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 14) 川上 純, 玉井慎美, 藤川敬太, 岩本直樹, 川尻真也, 江口勝美. 抗 CCP 抗体と関節リウマチの診断・病態. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 15) 川上 純, 玉井慎美, 岩本直樹, 川尻真也, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 蒲池 誠, 中村英樹, 井田弘明, 折口智樹, 上谷雅孝, 青柳 潔, 江口勝美. 抗 CCP 抗体と関節リウマチの診断・病態. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 16) 中島宗敏, 川上 純, 中村英樹, 井田弘明, 江口勝美. 関節リウマチの活動性マーカーとしての抗 CCP 抗体価の検討. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 17) 岩本直樹, 川上 純, 後藤明子, 福田孝昭, 柴富和貴, 田中史子, 河部庸次郎, 中島宗敏, 溝上明成, 松岡直樹, 塚田敏昭, 宮下賜一郎, 右田清志, 峰 雅宣, 植木幸孝, 江口勝美. 関節リウマチに対するエタネルセプトの治療効果の検討: 併用抗リウマチ薬による層別化. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 18) 蒲池 誠, 荒牧俊幸, 藤川敬太, 岩本直樹, 一瀬邦弘, 川尻真也, 江口勝美. Monocyte(Mo)はリンパ球の NF- $\kappa$ B と CDKs/Cyclin 複合体活性を相反性に制御する: Nitric oxide(NO)産生による細胞間シグナルと mitochondrial hyperpolarization(MHP: ミトコンドリア過分極)の SLE における病態的意義の考察. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 19) 蒲池 誠, 荒牧俊幸, 川尻真也, 岩本直樹, 藤川敬太, 一瀬邦弘, 江口勝美. ミゾリピン(MZR)が持つ mRNA splicing 調節作用の発見: MZR はリンパ球活性化により downregulate されていた caspase-8 の splice variant 発現を SR 蛋白質のリン酸化を低下させて upregulate する. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回

- 国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 20) 藤川敬太, 井田弘明, 川尻真也, 岩本直樹, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 蒲池 誠, 玉井慎美, 中村英樹, 折口智樹, 川上 純, 植木幸孝, 江口勝美. 原発性肥厚性骨関節症の3症例. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第17回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 21) 笠木伸平, 河野誠司, 中澤 隆, 小柴賢洋, 一瀬邦弘, 井田弘明, 江口勝美. 周期性発熱を来した筋炎の一症例. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第17回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 22) 右田清志, 宮下賜一郎, 古賀智裕, 鳥越雄史, 本川 哲, 中村 正, 井田弘明, 江口勝美. RA患者におけるMEFV遺伝子の検討. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第17回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 23) 川尻真也, 川上 純, 岩本直樹, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 蒲池 誠, 玉井慎美, 中村英樹, 井田弘明, 折口智樹, 江口勝美. 関節リウマチにおけるケモカインCCL20と生物学的製剤. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第17回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 24) 荒牧俊幸, 井田弘明, 川尻真也, 岩本直樹, 藤川敬太, 一瀬邦弘, 玉井慎美, 蒲池 誠, 中村英樹, 川上 純, 折口智樹, 松岡直樹, 江口勝美. 関節リウマチ(RA)に対する生物学的製剤による悪性腫瘍発生リスクの検討: ナチュラルキラー(NK)細胞への影響(第三報). 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第17回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 25) 川上 純, 藤川敬太, 岩永 希, 後藤明子, 福田孝昭, 本多靖洋, 中島宗敏, 河部庸次郎, 松岡直樹, 古山雅子, 右田清志, 塚田敏昭, 溝上明成, 峰 雅宣, 植木幸孝, 江口勝美. インフリキシマブ治療2年間の臨床評価. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第17回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 26) 塚田敏昭, 川上 純, 江口勝美, 井田弘明, 中村英樹. 高齢者におけるMTX治療の問題点. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第17回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 27) 折口智樹, 荒牧俊幸, 川尻真也, 岩本直樹, 藤川敬太, 玉井慎美, 井田弘明, 川上 純, 植木幸孝, 中島宗敏, 松岡直樹, 河部庸次郎, 福田孝昭, 峰 雅宣, 江口勝美. 関節リウマチ患者によるタクロリムスのQOLに対する評価. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第17回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 28) 一瀬邦弘, 川尻真也, 岩本直樹, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 蒲池 誠, 玉井慎美, 中村英樹, 井田弘明, 川上 純, 本多靖洋, 植木幸孝, 塚田敏昭, 江口勝美. ミゾリビン単回内服によるリウマチ性疾患の治療効果の検討. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第17回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 29) 森 源喜, 古賀智裕, 宮下賜一郎, 濱田久之, 右田清志, 江口勝美. 多発性筋炎に伴う間質性肺炎急性増悪に対しボリミキシン固相化カラム(PMX-DHP)・白血球除去療法(LCAP)を施行した一例. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第17回国際リウマチシンポジウム,

- 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 30) 川尻真也, 川上 純, 藤川敬太, 岩本直樹, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 蒲池 誠, 玉井慎美, 中村英樹, 井田弘明, 折口智樹, 江口勝美. 全身性エリテマトーデスに合併したインスリン受容体異常症B型の2例. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第17回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 31) 中村英樹, 川上 純, 岩本直樹, 井田弘明, 江口勝美. 唾液腺破壊からみたHTLV-1関連シェーグレン症候群の特徴について. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第17回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 32) 江口勝美. アダリムマブの適応と使い方. 第29回日本炎症・再生医学会, 2008.7.8-7.10, 東京.
- 33) 井田弘明, 一瀬邦弘, 荒牧俊幸, 川上純, 右田清志, 江口勝美. 本邦における自己炎症疾患の現状と定義の検討. 第29回日本炎症・再生医学会, 2008.7.8-7.10, 東京.
- 34) 川尻真也, 川上 純, 岩本直樹, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 玉井慎美, 中村英樹, 井田弘明, 江口勝美. 肺胞出血および急速進行性糸球体腎炎により再燃した顕微鏡的多発血管炎の一例. 第282回九州地方会, 2008.8.23, 沖縄.
- 35) 荒牧俊幸, 川尻真也, 岩本直樹, 藤川敬太, 一瀬邦弘, 玉井慎美, 蒲池 誠, 中村英樹, 井田弘明, 川上 純, 江口勝美, 折口智樹, 塚田敏昭. 多発腱付着部炎を合併した全身性エリテマトーデスの一例. 第36回九州リウマチ学会, 2008.9.6-9.7, 佐賀.
- 36) 川上 純, 玉井慎美, 岩本直樹, 川尻真也, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 蒲池 誠, 中村英樹, 中島宗敏, 井田弘明, 折口智樹, 江口勝美. MRI骨変化と自己抗体が陽性の診断未確定関節炎(UA)へのDMARDs治療. 第36回九州リウマチ学会, 2008.9.6-9.7, 佐賀.
- 37) 折口智樹, 川尻真也, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 岩本直樹, 一瀬邦弘, 蒲池 誠, 玉井慎美, 中村英樹, 井田弘明, 川上 純, 江口勝美. 最近経験したChurg-Strauss症候群の3例. 第36回九州リウマチ学会, 2008.9.6-9.7, 佐賀.
- 38) 野中文陽, 川尻真也, 岩本直樹, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 蒲池 誠, 玉井慎美, 中村英樹, 井田弘明, 折口智樹, 川上 純, 江口勝美. 臨床的血球貪食症候群の合併が考えられた成人発症Still病6例の臨床経過および治療. 第36回九州リウマチ学会, 2008.9.6-9.7, 佐賀.
- 39) 川上 純, 川尻真也, 岩本直樹, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 玉井慎美, 蒲池 誠, 中村英樹, 井田弘明, 折口智樹, 中島宗敏, 宮下賜一郎, 右田清志, 寺田馨, 植木幸孝, 江口勝美. トシリズマブによる関節リウマチの治療経験. 第36回九州リウマチ学会, 2008.9.6-9.7, 佐賀.
- 40) 植木幸孝, 寺田 馨, 佐藤浩信, 川上純, 江口勝美. RA診療における地域連携(地域連携バスを利用して). 第36回九州リウマチ学会, 2008.9.6-9.7, 佐賀.
- 41) 藤川敬太, 川上 純, 川尻真也, 岩本直樹, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 蒲池 誠, 有馬和彦, 玉井慎美, 中村英樹, 井田弘明, 折口智樹, 江口勝美. TNF阻害薬により血管炎を来した症例の検討. 第36回九州リウマチ学会, 2008.9.6-9.7, 佐賀.
- 42) 塚田敏昭, 井上祐一, 川上 純, 江口勝美. 生物学的製剤使用中に非結核性抗酸菌症による気胸を合併した一例. 第36

- 回九州リウマチ学会, 2008.9.6-9.7, 佐賀.
- 43) 今立博子, 宮下賜一郎, 牧山純也, 今立俊輔, 古賀智裕, 後藤亮介, 大野直義, 濱田久之, 高山隼人, 右田清志, 伊東正博, 江崎宏典, 江口勝美. 心タンポナーデを来たしたリウマチ性心外膜炎の一例. 第 36 回九州リウマチ学会, 2008.9.6-9.7, 佐賀.
- 44) 原口智佳子, 岩永 希, 川上 純, 島正義, 江口勝美. C 型慢性肝炎に対する IFN 療法後に多発筋炎を発症した一例. 第 36 回九州リウマチ学会, 2008.9.6-9.7, 佐賀.
- 45) 玉井慎美, 川上 純, 中島宗敏, 島山史, 高原 耕, 溝上明成, 原 肇秀, 林徳眞吉, 大坪まゆみ, 山口哲治, 川尻真也, 岩本直樹, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 蒲池 誠, 有馬和彦, 中村英樹, 井田弘明, 折口智樹, 江口勝美. DIP 関節炎と皮膚病変を呈した多中心生細網組織球症の 2 症例. 第 36 回九州リウマチ学会, 2008.9.6-9.7, 佐賀.
- 46) 江口勝美. 関節リウマチの治療最前線—不治の病から治る時代への幕開け—. 第 36 回九州リウマチ学会, 2008.9.6-9.7, 佐賀.
- 47) 江口勝美. 関節リウマチの早期診断予測と適切な治療. 第 22 回日本臨床内科医学会, 2008.9.14-15, 長崎.
- 48) 藤川敬太, 川上 純, 加治賢三, 藤本学, 川尻真也, 岩本直樹, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 玉井慎美, 蒲池 誠, 中村英樹, 折口智樹, 井田弘明, 石本裕士, 迎 寛, 桑名正隆, 河野 茂, 竹原和彦, 佐藤伸一, 江口勝美. 皮膚筋炎で検出される 155/140kD 抗体および抗 ARS 抗体の臨床的意義. 第 36 回日本臨床免疫学会総会, 2008.10.17-10.18, 東京.
- 49) 野中文陽, 川尻真也, 岩本直樹, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 蒲池 誠, 玉井慎美, 中村英樹, 井田弘明, 折口智樹, 川上 純, 江口勝美. 臨床的血球貧食症候群の合併から考えられた成人発症 Still 病 6 例の臨床経過および治療. 第 36 回日本臨床免疫学会総会, 2008.10.17-10.18, 東京.
- 50) 川尻真也, 川上 純, 江口勝美. 関節リウマチにおけるケモカイン CCL20. 第 36 回日本臨床免疫学会総会, 2008.10.17-10.18, 東京.
- 51) 井田弘明, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 右田清志, 江口勝美. 不明熱と TNF レセプター関連周期熱症候群(TRAPS). 第 38 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 2008.11.7-11.9, 大阪.
- 52) 川上 純, 玉井慎美, 上谷雅孝, 青柳潔, 江口勝美. MRI と自己抗体を用いた早期関節炎の予後予測. 第 23 回日本臨床リウマチ学会, 2008.11.29-11.30, 横浜.
- 53) 玉井慎美, 川上 純, 有馬和彦, 藤川敬太, 岩本直樹, 川尻真也, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 蒲池 誠, 中村英樹, 井田弘明, 折口智樹, 江口勝美. 関節リウマチにおける抗 CCP-2 抗体値の推移. 第 23 回日本臨床リウマチ学会, 2008.11.29-11.30, 横浜.
- 54) 蒲池 誠, 江口勝美. Nitric oxide によるヒト T 細胞分化が齎す IL-2 産生亢進と IL-6 産生低下を介した制御性 T 細胞の誘導. 第 38 回日本免疫学会総会・学術集会, 2008.12.1-12.3, 京都.
- 55) 中浦美江, 荒牧俊幸, 川尻真也, 岩本直樹, 藤川敬太, 中村英樹, 井田弘明, 川上 純, 江口勝美. シェーグレン症候群に合併した組織球性壊死性リンパ節炎(菊池病)の 1 例. 第 284 回日本内科学会九州地方会, 2009.1.24, 福岡.



- 56) 寺井千尋、北浜真理子、井上永介、飯国紀子、岡本 完、山中 寿、原まさ子、戸松泰介、鎌谷直之. 関節リウマチ患者性差の検討による重症化因子の解析. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集、p 298, 2008.
- 57) 小関由美、北浜真理子、櫻井 正、井上永介、原まさ子、戸松泰介、山中 寿、鎌谷直之、寺井千尋. RA 患者の予後に関連する炎症値の比較 -IORRA コホートにおける検討-. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集、p 446, 2008.
- 58) 小林 秀、猪狩勝則、金子裕隆、岡本 完、川口鎮司、戸松泰介、戸山芳昭、寺井千尋、原まさ子、山中 寿、鎌谷直之、桃原茂樹. 日本人における SATT4 遺伝子の関節リウマチ、全身性エリテマトーデスとの関連. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集、p 352, 2008.
- 59) 櫻井 正、北浜真理子、小関由美、鎌谷直之、寺井千尋. HBV 関連結節性多発動脈炎の一例. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集、p 379, 2008.
- 60) 岡本 完、金子裕隆、猪狩勝則、市川奈緒美、桃原茂樹、寺井千尋、谷口敦夫、山中 寿、鎌谷直之. クラス II 組織適合抗原 (MHCIIA) 遺伝子多型と関節リウマチ、全身性エリテマトーデスの疾患感受性の相関. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集、p 307, 2008.
- 61) 北浜真理子、櫻井 正、小関由美、鎌谷直之、寺井千尋. 関節リウマチと悪性腫瘍 -剖検輯報2000-04年度収載1225例から-. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集、p 304, 2008.
- 62) 北浜真理子、井上永介、金子裕隆、櫻井正、小関由美、山中 寿、原まさ子、戸松泰介、鎌谷直之、寺井千尋. 関節リウマチ患者の腎機能低下に関連する因子 -IORRA コホートの検討-. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集、p 303, 2008.
- 63) 神谷百合香、森口正人、宇賀田祐介、谷口祐子、寺井千尋. サラズスルファピリジンが奏効した SAPHO 症候群の一例. 第19回日本リウマチ学会関東支部学術集会プログラム予稿集. p 56, 2008.
- 64) 寺尾知可史、大村浩一郎、山田亮、島田浩太、高杉潔、吉藤元、野島崇樹、白井崇、藤井隆夫、松田文彦、三森経世. 日本人RA患者を用いた TRAF1/C5 遺伝子の多型と疾患感受性の検討. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会、2008. 4. 20. -23, 札幌.
- 65) 寺尾知可史、山田亮、RoubilaMeziani、高橋めい子、大村浩一郎、小久保美紀、吉住明子、水谷美香、MarkLathrop、IngaMelchers、松田文彦. 日本人、白人のリウマチ検体を用いたゲノムワイド相関解析. テーラーメイド医療を目指したゲノム情報活用基盤技術 第4回公開シンポジウム. 2008. 8. 1, 東京.
- 66) Ito I, Kawasaki A, Hayashi T, Matsumoto I, Ito S, Tsutsumi A, Ohashi J, Hom G, Graham RR, Takasaki Y, Hashimoto H, Behrens TW, Sumida T, Tsuchiya N. Replication of the association between C8orf13-BLK region and systemic lupus erythematosus in a Japanese population. 2008 American College of Rheumatology Annual Scientific

- Meeting, 2008.10.24-29, San Francisco. (Arthritis Rheum 58(Suppl): S220, 2008.)
- 67) Kawasaki A, Ito I, Hikami K, Hayashi T, Matsumoto I, Ito S, Tsutsumi A, Koga M, Arinami T, Graham RR, Hom G, Ohashi J, Takasaki Y, Hashimoto H, Behrens TW, Sumida T, **Tsuchiya N.** Association of STAT4 polymorphisms with systemic lupus erythematosus in a Japanese population. 2008 American College of Rheumatology Annual Scientific Meeting, 2008.10.24-29, San Francisco. (Arthritis Rheum 58(Suppl): S221, 2008.)
- 68) 土屋尚之, 伊藤聡, 松下正毅, 川崎綾, 伊東郁恵, 近藤裕也, 杉原誠人, 堀越正信, 松本功, 堤明人. 関節リウマチにおけるインフリキシマブ応答性関連遺伝子多型の探索. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2008. 4. 20-4. 23, 札幌.
- 69) 古谷武文, 松本功 土屋尚之, 箱田雅之, 市川奈緒美, 八子徹, 樋上謙士, 南家由紀, 住田孝之, 鎌谷直之, 小竹茂. 早期 RA 患者における抗 GPI 抗体と抗 CCP 抗体および HLA-DRB1 遺伝子型との関連. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2008. 4. 20-4. 23, 札幌.
- 70) 土屋尚之, 川崎綾, 伊東郁恵, 氷上光輝, 伊藤聡, 林太智, 後藤大輔, 松本功, 住田孝之, 古賀農人, 有波忠雄, 堤明人, 松多邦雄, 高崎芳成, 橋本博史, Robert R, Graham, Geoffrey Hom, Timothy W, Behrens. 日本人全身性エリテマトーデスおよび関節リウマチにおける STAT4 多型の関連. 日本人類伝学会第 53 回大会, 2008. 9. 29, 横浜.
- 71) 伊東郁恵, 川崎綾, 伊藤聡, 林太智, 後藤大輔, 松本功, 堤明人, Geoffrey Hom, Robert R, Graham, 高崎芳成, 橋本博史, 大橋順, Timothy W, Behrens, 住田孝之, 土屋尚之. 日本人における全身性エリテマトーデス (SLE) と C8orf13-BLK 領域遺伝子多型の関連. 日本人類伝学会第 53 回大会, 2008. 9. 29, 横浜
- 72) Tsuzaka K, Itami Y, Kumazawa C, et al. ACR 72nd Annual Meeting, 2008.10, San Francisco, U.S.A.
- 73) Tsuzaka K, Itami Y, Kumazawa C, et al. Oklahoma City, U.S.A. October, 2008.
- 74) 蔵岡愛, 山岡俊文, 佐藤伸一, 井田弘明, 青木浩, 井手口怜子, 上谷雅孝, 関山華子. 仙腸関節炎を伴い、歩行困難となった掌跖膿疱症の 1 例. 西日本皮膚科 70: 575, 2008.
- 75) 上谷雅孝. 早期リウマチ 早期 RA の MRI 診断. 日本関節病学会誌 27: 267, 2008.
- 76) 高尾正一郎, 山口哲治, 上谷雅孝, 米倉暁彦, 弦本敏行, 進藤裕幸. MR microscopy による膝蓋骨関節軟骨の評価. Rad Med 26 Suppl I: 82, 2008.
- 77) 玉井慎美, 上谷雅孝, 川上純, 川尻真也, 岩本直樹, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 蒲池誠, 有馬和彦, 中村英樹, 井田弘明, 折口智樹, 青柳潔, 江口勝美. 早期関節リウマチでの両手撮像 MRI. 日本リウマチ学会総会・学術集会・国際リウマチシンポジウムプログラム・抄録集 52 回・17 回: 249, 2008.
- 78) 川上純, 玉井慎美, 岩本直樹, 川尻真也, 藤川敬太, 荒牧俊幸, 一瀬邦弘, 蒲池誠, 中村英樹, 井田弘明, 折口智樹, 上谷雅孝, 青柳潔, 江口勝美: 関節リウマチの予後改善のために 抗 CCP 抗体と関節リウマチの診断・病態. 日本リウマチ学会総会・学術集会・国際リウマチシンポジウムプログラム・

- 抄録集 52 回・17 回: 202, 2008.
- 79) 江口勝美, 上谷雅孝, 川上純, 玉井慎美: リウマチ診療における画像診断学 MRI 画像による関節リウマチの早期診断予測と関節破壊進行予測. 日本リウマチ学会総会・学術集会・国際リウマチシンポジウムプログラム・抄録集 52 回・17 回: 163, 2008.
- 80) Abe Y, **Aoyagi K**. The association of stiffness index and cross-linked N-telopeptides of type I collagen with any clinical fractures differs with age and gender. ASBMR 30th Annual Meeting (Montréal, Canada), 2008.
- 81) Mikawa K, Abe Y, **Aoyagi K**. Usefulness of spinal mouse as a screening tool for the presence of vertebral wedge deformities. ASBMR 30th Annual Meeting (Montréal, Canada), 2008.
- 82) **Aoyagi K**. Structure of the Japanese health system. The 2<sup>nd</sup> National Health Research Forum to support the Health Research System strengthening in Lao PDR, 2008.
- 83) 青柳潔. シンポジウム「疫学研究からみた高齢者大腿骨近位部骨折の生命予後とその危険因子」第 35 回日本股関節学会 (大阪), 2008.
- 84) 青柳潔. 教育講演「転倒・骨折と介護予防」第 67 回日本公衆衛生学会, 2008.
- 85) 玉井慎美, 青柳潔, 江口勝美. 単純 MRI の有用性: 診断未確定関節炎の早期治療開始に向けて. 第 105 回日本内科学会総会, 2008.4.11-4.13, 東京.
- 86) 川上 純, 青柳潔, 江口勝美. 関節リウマチの予後改善のために: 抗 CCP 抗体と関節リウマチの診断・病態. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌.
- 87) 玉井慎美, 青柳潔, 江口勝美. 早期関節リウマチでの両手撮像 MRI. 第 52 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 17 回国際リウマチシンポジウム, 2008.4.20-4.23, 札幌
- 88) **Sakaguchi S**. The role of natural regulatory T cells in autoimmunity. 12<sup>th</sup> International Conference on Lymphocyte Activation and Immune Regulation, 2008.2.8-10, California, USA.
- 89) **Sakaguchi S**. Role of regulatory T cells in tolerance and autoimmunity. EurAPS International Symposium on Molecular Background of Tolerance and Autoimmunity, 2008.4.10, Helsinki, Finland.
- 90) **Sakaguchi S**. Regulatory T cells for self-tolerance and immune homeostasis. 2<sup>nd</sup> International Conference on Cutaneous Lupus Erythematosus, 2008.5.11-13, Kyoto.
- 91) **Sakaguchi S**. Regulatory T cells for immune tolerance and homeostasis. International Investigative Dermatology 2008, 2008.5.14-17, Kyoto.
- 92) **Sakaguchi S**. Regulatory T cells for self-tolerance and immune homeostasis. 13<sup>th</sup> Congress of the Asia Pacific League of Association for Rheumatology (APLAR2008), 2008.9.23-27, Yokohama.
- 93) **Sakaguchi S**. The role of CTLA-4 in self-tolerance and immune homeostasis mediated by regulatory T cells. The 10<sup>th</sup> International Symposium on Dendritic Cells, 2008.10.1-5, Kobe.

- 94) **Sakaguchi S.** Regulatory T cells for immune tolerance and homeostasis. The 11<sup>th</sup> Kyoto University International Symposium 2008 Frontier Bioscience in Modern Medicine, 2008.10.9-11, Shanghai, China.
- 95) **Sakaguchi S.** Regulatory T cells for immune tolerance and homeostasis. The 4<sup>th</sup> Congress of the Federation of Immunology Societies of Asia-Oceania 2008, 2008.10.17-20, Taipei, Taiwan.
- 96) **Sakaguchi S.** Regulatory T cells for immune tolerance and homeostasis. Keynote Lecture International Conference on Regulatory T Cells and Clinical Application in Human Diseases , 2008.10.25-27, Beijing, China.
- 97) **Sakaguchi S.** T reg cells primer on tumor immunology and biological therapy of cancer. iSBTe, 2008.10.30, San Diego, USA.
- 98) **Sakaguchi S.** Regulatory T cells for immune tolerance and homeostasis. International Conference on Immune Regulation in Health and Disease Japan-German Immunology Seminar 2008, 2008.11.3-6, 福岡.
- 99) **Sakaguchi S.** Regulatory T cells: Key controllers of immune responses. The Seventh Kimishige and Teruko Ishizaka Lecture in Immunology 2008 La Jolla Institute for Allergy and Immunology , 2008.11.12, La Jolla, USA.
- 100) **Sakaguchi S.** Regulatory T cells for the control of immunological diseases. 2008 Keio Medical Science Prize Commemorative Symposium , 2008.11.22, 東京.
- 101) 橋本 求. SKG マウスの関節炎発症における Decti-1 依存的、非依存的経路の解析. 第 38 回日本免疫学会, 2008.12.1, 京都.
- 102) 前田伸治. TCR シグナル伝達の補正による SKG マウスの自己免疫性関節炎の発症抑制. 第 38 回日本免疫学会, 2008.12.1, 京都.
- 103) 野村尚史. TCR シグナル不全による制御性 T 細胞分化障害と自己免疫病の発症. 第 38 回日本免疫学会, 2008.12.1, 京都.
- 104) 坂口志文. 関節リウマチと T 細胞異常. 第 12 回リウマチフォーラム, 2008.1.19, 東京.
- 105) Shoda H, **Fujio K**, Yamaguchi Y, Yamamoto K. Mycobacterium HSP70 immunization induces anti-citrullinated peptide antibody and exacerbates mouse models of inflammatory arthritis. 第 38 回日本免疫学会総会・学術集会, 2008.12.1-12.3, 京都.

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

##### 1. 特許取得

土屋尚之

●出願番号：2008-074288

発明者：松下正毅, 土屋尚之,  
住田孝之.

発明の名称：インフリキシマブの  
有効性判定方法

出願人：国立大学法人筑波大学、  
湧永製薬株式会社

出願日：2008.3.21.

津坂憲政